

令和 元 年 6 月 12 日現在

機関番号：33925

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13248

研究課題名（和文）日本語教育における音楽の活用 --- 記憶を助ける替え歌教材ウェブサイトの開発

研究課題名（英文）The use of music in the Japanese language education

研究代表者

村上 かおり（Murakami, Kaori）

名古屋外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：30351167

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は日本語教育における音楽の活用を検討することであった。日本語学習者は特に初級の段階で時間の表現、助数詞等の大量の項目を暗記する必要に迫られる。この「覚える」作業の負担を軽減する方法として例えば「て形の歌」のような替え歌が用いられるが、このような替え歌はまとまった教材として集約・整備されていない。

本研究はこれらの日本語学習のための替え歌を集約・整備したウェブサイトを制作し、日本語教育の実践の場において音楽が今後さらに活用されるための環境の整備を試みるものであった。

しかし大変遺憾ながら、研究代表者の体調不良によって研究を進めることが不可能となり、成果を見ることはできなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語学習教材として使用可能な替え歌を作成・集約してウェブサイトに掲載してまとまった教材の形にして公開し、国内外の日本語教師や日本語学習者が積極的に使用できるように整備することには大きな意義があると考えて、下記1.～5.を実施する予定であった。

1. 先行研究の検討 2. 替え歌の作成・編集 3. ウェブサイトの制作 4. 閲覧者からの替え歌の投稿
受付 5. 広報活動

しかし、「研究成果の概要」の項目でも述べたように、研究代表者の体調不良により研究を進めることが遺憾ながら不可能となってしまったため、上記1.及び2.の途中までで終了することとなってしまった。

研究成果の概要（英文）：The main purpose of this research was to examine the use of music in the Japanese language education. Japanese language learners face a large quantity of items to memorize such as expressions of time and counter suffixes at the beginning of their learning. In order to reduce the burden, parody songs such as "Te-form song" are used in the classrooms but there are no well-organized teaching/learning materials for this purpose. Therefore, it was thought to be meaningful to create a website that collect and organize the parody songs for the learning purpose and expand the use of music in the classrooms. However, it is very regrettable that the research could not be done due to the researcher's sickness.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育 教材 教育メディア ウェブ教材 音楽 替え歌 暗記 記憶

1. 研究開始当初の背景

外国語教育における音楽の使用は英語教育の分野では広く実践されているが、日本語教育の分野ではそれほど盛んとは言えない。本研究では日本語教育の実践の場において音楽が今後もっと盛んに使用されるようになるための環境の整備と教材の集約を、ウェブサイトを作成して公開することによって試みようとした。

具体的には、日本語学習者の暗記の負担を減らすための替え歌の使用法の検討を試みた。日本語学習のごく初期の段階において、学習者は大量の暗記項目に直面する。それは例えば数字、時間の表現、日付の表現、助数詞などである。さらに学習が進むと様々な動詞の活用形や自動詞と他動詞のペアなども覚える必要に迫られる。この特に初期段階の「覚える」作業の負担を大幅に軽減する方法として、替え歌の使用がある。代表的なものとして「て形の歌 (Te-form song)」があり、国内外の日本語教育の現場で広く使用されている。しかしこのような替え歌は教師から学習者へ、または同僚同士の伝承によって広がっており、これらを集約・整備した教材等は管見の限りでは見当たらなかった。

伝承によって広がるということは、伝承を受ける機会がない人はそのような替え歌の存在さえも知らないということになる。一方で、インターネットで検索を試みると、日本語教育の分野で使用されている替え歌は世界各国に散在していることがわかるが、ここでもまた、検索を試みない限り、知らない人は知らないままになってしまう可能性がある。

そこで、日本語学習教材として使用可能な替え歌を作成・集約してウェブサイトに掲載し、国内外の日本語教師や日本語学習者が積極的に使用できるように整備・公開することには大きな意義があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本語教育の実践の場において音楽が今後もっと盛んに使用されるようになるための環境の整備と教材の集約を試みることであった。具体的には、学習者の暗記の負担を軽減するための教材として使用可能な替え歌を作成・集約したウェブサイトを作成して公開し、国内外の日本語教師や日本語学習者が積極的に使用できるように整備・公開することを目指した。

3. 研究の方法

予定していた研究方法は次の通りであった。

(1) 先行研究の検討

「(a)外国語教育以外の科目における音楽の使用」、「(b)日本語以外の外国語教育（主に英語教育）における音楽の使用」、「(c)外国語または第二言語としての日本語教育における音楽の使用」に関する先行研究を調べる。(b)と(c)では特に「音楽が記憶を助ける」という観点からの研究に焦点を当てて検討する。

(2) 自作替え歌の作成

暗記が必要とされる学習項目（数字、時間の表現、日付の表現、助数詞、動詞の活用形、自動詞と他動詞のペア等）のための替え歌を作成する。歌詞と旋律を浄譜し、伴奏も作成する。

旋律は著作権が消滅している曲のものを使用するが、その際に特によく知られている世界の民謡やクラシック音楽等の旋律を選択することによって、学習者が旋律を覚える負担を減らして歌詞に集中できるようにする。

(3) ウェブサイトの制作

ウェブサイトを構築し、(2)で作成した替え歌の歌詞、旋律と伴奏を掲載して、国内外の日本語教師、日本語学習者が利用できるように整備・公開する。

(4) 閲覧者からの替え歌の投稿受付

国内外の日本語教師、日本語学習者が知っている日本語学習のための替え歌を投稿してもらう。この時、原曲の著作権を侵害しないように慎重に行う。

(5) 広報活動

日本語教育関連の学会や研究会、メーリングリスト等でこのウェブサイトについての広報活動を行う。

4. 研究成果

「3. 研究の方法」で述べた(1)～(5)のうち(1)と(2)を進めていたが、研究代表者の体調不良が悪化し、体調の快復を待つて研究を進めようと努力するも思うような快復が見込めず（現在も療養中）、研究を続行することが不可能となってしまった。そのため、遺憾ながら、まとまった成果を挙げることはできなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等：無し

6. 研究組織

(1)研究分担者：無し

研究分担者氏名

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者：無し
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。